

あそぶ・まなぶ・語る

周防大島町総合体育館陸上競技場 / 日本ハワイ移民資料館
八幡生涯学習のむら / 宮本常一記念館

第44号
2023年11月



「これはやるしかないなあ」

観光協会のサタフラが一区切りした昨夏、次年度から準備を整えて追々実施した



いと考えていた「ハワイアンキルト展」。考えてみれば2023年はカウアイ島との姉妹島提携60周年。この機会に記念イベントとして開催……できるのか？ カルチャー誌や、本を読みあさりながら仲間に相談す

ると「やつぱりハワイアンキルトといえばキャシー中島さん！キルト展示やトークショーに来てもらえたら一大イベントになる」と口を揃えて言われた。かく言う私も同意見。しかし館を運営する我が団体、予算確保からが大問題。当たって砕ける覚悟でキャシー事務所に連絡。キルトのレンタル契約は取付け、問題はトークショー。関係諸団体の骨折りもあり予算確保できたのが、今年の5月。その時の心境が冒頭一言。それから日程調整、内容協議等エトセトラ、息つく暇もなく、既に始動していた「島高フレンドシップキルト」「町民フレンドシップキルト」等……。キルト展開始及びトークショーをサタフラ開幕に合わせる！姉妹島提携60周年を盛り上げる一心で観光協会や関係団体の協力を得て悪戦苦闘。周防大島町のご助力によりカウアイミュージアム所有のビンテージキルトの借用も決まり本キルト展の目玉展示も決定。会期は7月15日から8月31日まで。トークショーもあり盛況。キルト展では希望あふれる未来を語る若者、緩やかな余生を共に楽しむ老夫婦など様々な出会いも頂くことが出来た。今回の私の挑戦に一緒に悪戦苦闘してくれた仲間にも心からの感謝を！そして又よろしく。(笑)

いくつになっても新しい挑戦をすると新たな発見がある。

最近、又何か面白い事はないかとワクワクと考える私がいる。「歳なんだから大人しくしといたら？」と諫める妻がいる。ジーツと見つめる周防大島がここにある。(米澤功臣)

宮本常一記念館

【文化と交流】

No. 7 の発行

このたび、宮本常一記念館では『文化と交流』No.7を発行しました。本号の前半では、当館地域交流員の内本良夫さんによる棚田石垣に関するレポートを掲載しました。宮本常一は「旅にまなぶ」ことや「郷土での研究」の意義を繰り返し述べていましたが、このレポートではそれらが精力的に実践されています。お読みいただくと、宮本の目指した学問が、ここ周防大島で確かに根付いているというのを感じとっていただけると思います。本号の後半では、今年の3月から5月にかけて当館で開催した企画展「宮本常一関係資料を紐解く」について報告し、また5月に刊行された畑中章宏さんの書籍を紹介しました。

『文化と交流』No.1～7は町内の図書館に置いてありますので、是非手にとってご覧ください。(板垣優河)

「ノルディックウォーキング」

高い有酸素運動

効果に注目！



周防大島町
総合体育館

文化交流センター
ホームページの
一時閉鎖



宮本常一記念館

得るために、ウォーキング前後のストレッチはとても大切です。

す。1周400mです。

◆ 歩いてハッピー ◆

気軽に始める全身運動

健康づくりの一環として、競技場では毎月第4木曜日に「いきいき健康ウォーキング」を開催しています。

ノルディックウォーキングは、北欧生まれの2本の専用ポールを使って歩くウォーキングです。4点歩行により、両足にかかる加重負担を分散させ、膝などへの負担を軽減させるとともに、ポールを使うことで上半身も積極的に動かし、効率的に全身運動をおこなうことができます。運動の苦手な人もなたでも手軽に始められ、健康づくり、スタミナアップなどに効果的です。インストラクター指導のもと行いますので初心者の方も安心してご参加ください。



ウォーキング前にストレッチを行なうと、怪我の予防、酸欠の予防、脂肪燃焼効率アップといった、嬉しい効果を得ることができます。はじめて来られる方も大歓迎です。インストラクターが丁寧に教えます。

●「いきいき健康ウォーキング9月」を開催しました！

曇り空ですが風が心地よい季節になってきました。運動を始めるには良い季節です。

まずはウォーキングアップ！ 安全かつ効果的なウォーキング効果を



ご自分のペースでウォーキング。海からの風も心地よく感じられます。

ノルディックウォーキングでは肩甲骨をたくさん使うので肩や首のこりの解消も。最後は芝生の上でのストレッチでクールダウン。使った筋肉をクールダウンすることで、疲労回復も早まります。参加された方に感想をいただきました。

「肩甲骨を動かしてからのウォーキング。とても気持ちよかったです」

ご参加ありがとうございました！

【日時】 毎月第4木曜日

10時～11時半（※11月は24日開催）

【場所】 周防大島町陸上競技場

※雨天時は総合体育館アリーナ

（室内履きをお持ちください）

【対象】 どなたでも参加できます

【参加料】 ポールレンタルを含め無

料（予約不要です）

【携行品】 タオル・飲み物・帽子等

【その他】 歩きやすい服装でご参加

ください

【連絡先】 周防大島町陸上競技場・

総合体育館

0820・78・2512

周防大島文化交流センター（宮本常一記念館）のホームページは、開設以来、同センターの活動や宮本常一に関する情報を提供してまいりましたが、セキュリティの関係上運営に支障があることが判明したことから、まことに勝手ながら急きよではございますが、令和5年9月30日をもちまして一時的に全面閉鎖をさせていただきます。

この機会に、宮本常一データベースの拡充も含め、今後の在り方を検討し、リニューアルを進めてまいりたいと考えております。皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解いただけますと幸いです。

なお、今後の同センターのイベント情報等につきましては、周防大島町の公式ホームページにてお知らせいたします。写真の使用や書籍の購入につきましては、窓口又は電話もできますので、引き続きよろしくお願いいたします。

高齢者サロン開催

民具保存の
可能性

八幡生涯学習のむら

「ああ、ちがう、ちがう、反対にまわしてね」

明るい声が聞こえました。

学習のむらで月に一回開催している高齢者サロンで石臼を使ったきな粉作り体験のことです。

サロンでは数人のボランティアスタッフが参加者の方々をサポートします。ところが、若いスタッフたちは石臼を使ったことはもちろん、さわるのも初めて。煎った大豆を石臼に入れながら「粉にならないね」と悪戦苦闘。せつせと石臼を回していたところ、参加者の方から「待った」がかかりました。石臼を使う時は左回りでなければひけません。スタッフは右に回していたのです。参加者さんがおっしゃるには、「なんでもモノをしめる時、固める時は右回り。緩める時、壊す時は左回り」なのだそうです。感動するスタッフに参加者さんもうれしそうでした。石臼体験の後、参加者さんたちは併

設の民俗資料館を見学したり季節の切り紙の作品を作ったりと思い思いに楽しめました。帰宅されてからは小さい頃石臼をひいた事などご家族と思い出話に花が咲いたということです。後日、スタッフを通じて昔の道具をもっと使ってみたいというリクエストをいただきました。

周防大島町は宮本常一の指導で収集した多くの民具を保存しています。民具の収集について、宮本は町



の人々の協力があつてこそその仕事であつたと町の人たちの力を高く評価していました。それだけくらしの中で使われていた道具が集まったので

しょう。収集された民具には当時のまま保存することで町の歴史とくらしを後世に伝える使命があります。同時に、周防大島町では実際にさわったり使ってみたりすることで体験を伝えるための民具も所蔵しています。どちらの民具も大切な役割を担っています。昔のことを思い出し、楽しく語り合うことは脳の健康にとっても良いといわれます。子どもの頃使っていた民具にふれたり使ったりすることは懐かしい記憶を呼び起こし、高齢者の健康づくりに貢献できる可能性があります。宮本は人々の幸せを願っていました。民具が学びと楽しみに寄与できれば宮本も民具たちも喜んでいいるのではないでしょうか。

(古賀瑞枝)

学校
小学生
久賀3年生

脱穀
体験



毎年、八幡生涯学習のむらでは久賀小学校3年生の脱穀体験に協力しています。子どもたちは、足踏み脱穀機、わらやもみ殻と玄米を選別するトウミなど昔の道具について説明

を受けた後、ボランティアさんの指導で脱穀に挑戦します。足踏み脱穀機を使って粃が稲穂からはずれて勢いよく飛び散る様子が子どもたちは



歓声をあげます。現在は米を作っている農家も少なくなっています。昔の農作業を体験することで、子どもたちは米作りの大変さを知ったり効率よく脱穀するための道具の工夫や技術に驚いたり印象深い体験になったようです。

体験で使う稲も久賀の方からご提供いただいています。子どもたちの学びはたくさんの方のご協力で支えられています。

一枚の古写真



これは宮本常一が昭和39年10月4日に周防大島の地家室で撮った写真です。海に向こうには沖家室島が見えます。地家室は三万を山に囲まれ、南に向かって開いた集落です。まさに「室」のような地形にあり、北東西の風を防ぐことができたので、帆船時代には波除け・風待ちの寄港地として利用されました。北風が強いときは沖家室島の船も地家室に避難しましたが、逆に台風等の影響で南風が吹き荒れると、地家室の船は沖家室島に避難しました。つまり、この付近では、地と沖の二つの「室」がセットになって、瀬戸内海航路の発展を支えてきたといえます。

明治30年頃から戦後しばらくの間、地家室の近海には北九州から石炭を積んで大阪へ向かう船が通っていました。先頭の動力船が箱のような形をした船を5つも6つもひいて石炭を運びました。小さな船は波に弱く、昭和30年頃にも波除けのために100艘近くの船が地家室に碇泊

していたといえます。

また、地家室には柳井と松山を結ぶ客船が来ました。といっても、ここには客船を横付けできるような波止がなかったで、ハシケという小さな船で沖まで漕ぎ出し、そこから客船に乗り換えていました。盆や正月には本土からの帰省者がお土産をたくさん積んで帰ってきます。それを浜に出て迎えるのが楽しみだったそうです。

写真の手前には石敷きの道が見えます。これは地家室と外入を結ぶ往還で、地家室の子どもにとっては、



外入の白木中学校に通うための通学道でもありました。その後、平成3年に往還に沿って県道が完成し、車の通行が可能になります。これにより往還は一時荒廃しますが、地元有志のはたらきで、現在は遊歩道として整備されています。

地家室には白木山を水源とする川が流れており、谷の奥まで水田が作られていました。それら田が、昭和35年頃からミカン畑に転換されていきます。ミカンはこの地域の貴重な収入源になりました。

令和3年5月には、地家室と佐連の間に「佐連アワサングトンネル」が開通しました。そのトンネルの地家室側、かつて地家室と佐連の子どもが通った地蔵小学校の跡地に、地家室園地拠点施設がオープンする予定です。付近の海域には国内最大規模のニホンアワサング群生地があり、この施設ではその生態を学ぶこともできます。

地家室を含め、白木半島には見所がたくさんありますので、是非足を運んでいただき、この地の自然や歴史、文化にふれていただければと思います。

(板垣優河)

令和5年度

宮本常一記念館 公開講座

当館では、農山漁村の生活文化と宮本の学問的な魅力に迫るための公開講座を開催しています。

9月30日の講座では、「和食文化の源流を求めて―山村の植物食を中心に―」というテーマで、縄文時代から連綿と受け継がれてきた稲作以前の食、すなわち「縄文食」に焦点をあて、ドングリやトチの実の食べ方などを紹介しました。そして、そこで培われた食物加工の技術や民族的な嗜好性が、今日の和食文化の基盤になっていることを示しました。

11月3日の講座では、「宮本常一と縄文農耕論」というテーマで、宮本が晩年に構想した壮大な仮説「日本文化形成史」における農耕の起源問題について、近年の縄文時代の研究成果を踏まえて検証しました。

以上の講座については、周防大島チャンネルで放送予定です。その場合は、放送内容を収めたDVDが図書館に配布されますので、興味のある方はご覧ください。

(板垣優河)